

『恋人はスナイパーEPISODE 3 ([THE MOVIE]?)』

【ストーリー(細かい脚本は君塚氏の領分ですから...)】

[1&2 のストーリー総括が入って...]王凱歌(内村光良)は逮捕の後、香港警察への護送が決まった。“1211”は彼の護送の際を狙って、彼をさらおうとした...

だが、中国では失敗する可能性が大きく、また大事になってはいけない。...日本で決行することを決めた。“1211”の構成員が数人ほど東京に配備させて念入りに警察の情報を集めた結果、凱歌を奪取した。しかし、横浜港についたときには凱歌の姿はなかった...焦る構成員たち。コー村木(竹中直人)も彼らの思わぬ失態に激怒した。

「何をしているんだ王凱歌！我が弟よ...」焦るコー村木の真相は？

国際二課もまた、凱歌の護送失敗の責任を負わされそうになった...香港警察の出した期限は『10日』。一刻も早く凱歌を見つけ出さなければ、船木健一(田辺誠一)ら国際二課メンバーの身が危ない。円道寺きなこ(水野美紀)もまた、凱歌の行方を必死に追うが、いっこうに手がかりがつかめない。

“1211”もまた、凱歌をおびき寄せるためにあらゆる手段を使ってきた...だが、凱歌は未だ姿を現さない。

一方、凱歌の母・島村市江(八千草薫)の心臓病は良くなるどころか、事態は深刻な方向に向かっていた。

「凱歌...今どこにいるの？」母としてのやりきれなさが、市江の心を締め付ける...

夜...寝ていると、謎の覆面男が突如として現れた!!朝、看護婦が部屋に入ると、そこに市江の姿はどこにもなかった...

ある日...円道寺家がまたしても狙われた!!

『凱歌を取り戻すこと』をコー村木より命じられた“1211”の青龍&赤龍(与座嘉秋・檜山豊)が刺客を再びよこしたが、きなこの父・雁太郎(いかりや長介)や母・美智(赤座美代子)、妹・はな(一戸奈未)の手により返り討ちにあった。しかし静まった円道寺家の夜更けを襲い、2人ははなを連れ去る。

きなこが家に帰り、この事態を知った...。しかし、香港警察当局は凱歌の犯行と断定し、「凱歌の射殺も辞さない」という態度を突然に示した。だが健一も、きなこ同様にこれが凱歌の犯行とは思えなかった...。香港警察当局への不信感が、国際二課のメ

ンバーの心を覆うようになってきた...

一方、コー村木や青龍&赤龍・偽劉文忠(中村獅童)を含めた“1211”のメンバーは続々と香港に集結していた。まるで凱歌に備えるが如く...また、本当のアジトをあえて見せることで警察当局をひきつけて叩き潰すかの如く...

またしてもライフル事件での犠牲者が!!身元が判明すると、全員がその事態に驚愕した!!なんと、香港警察当局の幹部であったのだ!!彼を殺害した後、またしても幹部になりすましていたのだ!!

「1度ならず2度までも...」きなこの中に静かな怒りが込み上げてきた...

花やしきで途方に暮れるきなこ...そこに凱歌の姿が!!

「...“1211”を潰す」突如として、凱歌は口を開いた。

「はなちゃんは...間違いなく“1211”に捕えられた。そして僕の母も...」

さらわれた市江の安否を気にする凱歌。

「香港に奴らのアジトがある」

「香港警察をも乗っ取ろうとする上に...許せない!!」

きなこも“1211”を倒すことを決めていた...。それに凱歌の引き渡し期限もあと2日に迫っていた...もはや一刻の猶予もない!!

「あたしも香港に行く」きなこは搾り出すように凱歌に言った。

「みすみす死ぬつもりか!...犠牲になるというのなら、僕1人で充分だ」

「やだ。行きたら行く!!」

「僕がいなくても幸せになるって約束しただろ!!」

凱歌ときなこ...初めて会ったときから、何か運命めいたものが2人の間にあったのかもしれない。

凱歌ときなこは、“1211”と関連をもつといわれる暴力団『東洋興業』に潜入し、組長(佐野史郎)を倒してアジトの場所を聞き出す。

大阪港から出る船に忍び込み、香港に上陸した2人...“1211”との最終決戦の火蓋は切って落とされた!!

青龍&赤龍を2人で撃破し、さらに偽劉文忠との因縁の対決!!...そして、ボス・コー村木との最終決戦がついに始まる!...凱歌とコー村木の間には、一体どんな関係があるのか?はな・市江は、果たして無事なのだろうか?...そして、凱歌の迎える運命は?

結末は公開までわからない...

【独自のキャラクターを紹介!!】

青龍&赤龍

“1211”のメンバー。コー村木より凱歌を探し出す命令を受けて、当時任されていた朝鮮半島から、日本に送り込まれた刺客の2人衆(兄弟ではない)。

役どころとして、ホーム・チームのお2人(与座嘉秋・檜山豊ともに)を当てはめてみたが、設定しているイメージとしては、『西遊記』の金角・銀角兄弟である。

「あのお間抜けなキャラを現代に呼んでみたら、どういう感じになるだろうか」ということから全てが始まった…。そこで、内村光良さんとは専門学校・事務所の後輩にあたり、深夜番組『感じるジャッカル』(←2002年9月に放送終了)で活躍していたホーム・チームの2人にスポットを当ててみた。

与座さんもEPISODE 2でやられ役を経験した(水野さんにお笑いみたいなやられ方をしていました。中国語も様になっていました)ので、あとは檜山さんのみ。でも、うってつけではないか!!

東洋興業の組長

“1211”と深い関わりをもつ、この暴力団組織を一手に束ねる。

役どころとして、佐野史郎さんを当てはめてみたが、設定しているイメージとしては、EPISODE 2で古田新太さんが演じた八雲がそれに近い。

あの時も確か…壺かなんかを内村さんがもって「ボスはどこだ」と言って、水野さんに投げて、また水野さんは内村さんにそれを投げ返した。そして「ボスは…ずっと日本にいる!」と焦って言うと、止まった内村さんが壺を下に落とす…壺が“ガチャーン”と割れてしまった…。古田さんのあのときの…今でも笑える…。

「そのくらいの笑いのシーンを、古田さん以外でも出せないか」…そう考えているうちに、佐野史郎さんという存在がに気付いた。もう一度、あのコントのような演出を君塚氏にお願いしたく思います!!

その他 配慮した点

“New Edition”がらみのことが出てくるかも?

【撮影地について】

香港での撮影を予定しているというのは知っていました(数々の情報により)。これがEPISODE 1 & 2との決定的な違いでしょう。

あと、大阪港とありますが…これはどこでもいいでしょうね。「恋スナ収録を大阪でも見たい」という、俺の単なる地元贔屓ということで(笑)。

『恋人はスナイパー ~ New Edition ~』

【ストーリー(細かい脚本は君塚氏の領分ですから...)】

“1211”のボス・コー村木との最終決戦の末、組織は壊滅した...

あの激戦から数年が経ち、静けさを取り戻した東京...

当時の国際部国際二課長・船木健一はきなこと結婚し、のち功績がたたえられて国際部長に昇格した。また、きなこも健一の計らいで事務課長に異動となった。

健一のあとの新任国際二課長・相沢大輔は、健一とは大学の先輩・後輩の関係にあった。彼とともに談笑しながら武道場に足を運んでみると、きなこと互角に渡り合う1人の女性がいた...刑事部捜査二課の牧野恵美である。

一方、韓国の首都・ソウルでは、アジア各地の裏社会を牛耳っている闇の組織“1212(TWO-TWELVE)”が徐々にその勢力を海外に広げようとしていた...

その影響はついに東京に現れた!!...韓国の500ウォン硬貨の大量発見により、韓国人グループの摘発に成功したが...一丁のライフルが発見された。そこには、“李波児[Lee=Paul]”という名が印字された紙があった。彼は、韓国や北朝鮮のVIPや政治家・大企業の要人などの暗殺による国際指名手配犯として行方を追われている男である。

国際二課は恵美の配属が決まった矢先であり、早速捜査に向かった。

“1212(TWO-TWELVE)”の謎のボスの命令を受けて、日本に密航してきた李波児は、連絡役・Dr. 橋本に会い、ライフルを受け取った...。だが、波児は橋本に言葉を返した。

「俺の母を、北に売っていないだろうな？」

彼の母は、脱北した日本人妻である。工作員である父の顔を知らない彼にとっては、ソウルで生まれ育ったと言ってもいいぐらい、北朝鮮人とは思えなかった。

橋本にはそういった愛情などこれっぽっちもなく、無意味にやりかねないことも波児にはわかっていた。わかっているのに逆らえない波児のもどかしさ...

波児は、ついに射殺事件を起こした!!被害者は大物政治家・大淵崇。国際二課を中心として、特捜本部を設置した。

その距離、なんと0.5 km!!...王凱歌をも凌ぐ天才級の腕前だ。

「李波児...とんでもない奴だな...」

相沢の目には、いっそうの気合が入ってきた。だが、相沢の気合は空回りするばかり

りで、部長に昇格した健一が本部の主導権を握っていた。捜査経験の未熟な相沢や恵美を氣遣ってのことだ。

一方、橋本に今回の依頼の報告を済ませる波児。

「いい加減、母を解放しろ！」波児は橋本に突っ掛かった。

母子ともに平穩に暮らしたい波児は、橋本のやり方に徐々に不満をあらわにしてきたのだ。だが、橋本は聞く耳をもたない。

「おっと、次の仕事だ。これを済ませれば考えてやるよ。つべこべ言うなら、お前の母親を北に送り返そうかな？」...橋本に再び突っ掛かりたい気持ちを抑えずにいらなかったが我慢した。自身が情けなく映ることに腹が立って仕方がなかった。

とある英会話学校の入口で、波児は女とぶつかった。その女こそ恵美だったのだ。彼女も相沢の命令でここに通っていたのだ。素っ気ない態度でその場を逃げて、校内に入っていく波児。恵美は波児に喰らいついた。...そこから、なぜか知らないが2人は息が合うようになったのだ!!でも、父・源二も参加している地元の祭に連れて行っても、波児は相変わらずの素っ気なさだ。

なぜ、波児は英会話学校に入っているのか?波児と同棲しているうちに、気になって仕方がなかった。

「俺...明日にはここを離れるよ。お前のことは...忘れない」

突然、波児は恵美を抱きしめた。まるで何かの覚悟を決めたかのように...

翌朝...彼の姿はなかった。「まさか...李波児?」

恵美は苦悩した...相沢に言うべきか否か...

通っていた英会話学校の校長・デビッドは、なんと親米主義者である。朝鮮半島情勢のため、彼の抹殺を橋本から命じられた波児。

デビッドは、とあるパーティーに招待されてそれに参加することを決めたのだ。相沢ら国際二課メンバーが厳戒する中、恵美はライフルを構える波児を発見した。

「あなたが...李波児だったなんて...何でこんなことするの?意味ないんだよ、こんなことしたって」

「やらなければ、ソウルにいる俺の母は殺される...お前にわかるか!」

波児と恵美は、お互いに気持ちをぶつけ合いながら戦う!相沢たちも2人をかぎつけて、2人の真剣勝負に全てを託した!!

果たして、激動のエンディングはどうなるのか?

【イメージキャスト】

李波児 ... 未決定

牧野恵美...平山あや

相沢大輔...宮迫博之

水沢八恵... 未決定

Dr. 橋本 ...北村一輝

牧野源二...内藤剛志

(他に...)水野美紀, 田辺誠一, 竹中直人, いかりや長介 ほか多数

【キャラの設定 ほか】

李波児[リー・ポール]

性格など

王凱歌と比較して決定的に違うのは、仕事や普段では“かなりクールな性格”であり、人を寄せ付けないオーラを常に発揮していることだ。

生まれは北朝鮮・平壤、育ちは韓国・ソウル。父の顔を知っていないが、工作人員であることは明白(妻子の脱北がバレて、処刑されたかも?)。母はその彼に嫁いだ日本人妻であるが、脱北したために北朝鮮国軍に追われている。“1212(TWO=TWELVE)”の手に彼女の命がかかっている状況であるために、うかつに逆らえない。

もし逆らえば、母は北朝鮮に連れて行かれて殺されるのが関の山だからだ。

役どころの選定理由

未決定ゆえ、まだありませんが...

希望としては、クールな感じの合う俳優や若手芸人にお願いしたい。

他に「こういう人なら相応しいのでは?」があれば、どしどし受け付けまっせ!!

牧野恵美[まきの・めぐみ]

性格など

きなことは、少林寺拳法の腕では互角以上。このことが災いしてか、彼氏がいた経験は今までなし。

元は刑事部捜査二課にいたのだが、船木・相沢の目に留まって国際部国際二課への配属が決まった。性格はかなりやんちゃで、きなこよりは女性らしい性格をもっている。世田谷の下町・下北沢で古本屋をやっている牧野源二の1人娘であるが、現在は都内のワンルームマンションで一人暮らしをしている。

役どころの選定理由

平山あやさんをこの役に想定したわけだが、(アクション女優の W 杯があれば、間違いなく日本代表の)水野美紀さんの後継となれるようなアクション女優が現在いない上では、運動能力の高い人を持ってきてほしい。

他に「こういう人なら相応しいのでは?」があれば、どしどし受け付けませ!!

相沢大輔[あいざわ・だいすけ]

性格など

国際部長に昇格した船木健一の後任の国際部国際二課長。船木とは、同じ大学・学部先輩・後輩にあたる(船木より 2 年遅れて警視庁に入った)。

部下への命令口調は、かなりきついものがある(年下や女性呼び捨て。但し、年配の人は除く)。...だが、至って温厚なので全く憎めない存在であり、部下の責任であっても、何でも自身に背負おうとする正義感の非常に強い男でもある。

恵美をたらしのように見るのも、船木がきなこに対して行ったのと同じ共通である。

役どころの選定理由

雨上がり決死隊・宮迫博之さんをこの役に想定したわけだが、俺に『“ お笑い芸人 ” と “ 役者 ” の兼業』の可能な様を見せつけた数少ない芸能人の 1 人である。温厚な役どころはかなり得意なはずではないだろうか。

他に「こういう人なら相応しいのでは?」があれば、どしどし受け付けませ!!

水沢八恵[みずさわ・やえ]

性格など

李波児の母で、上の名は日本名である。

在日北朝鮮人の男(= 波児の父となる工作員)に好意を抱き、希望をもって北朝鮮・平壤に来たものの、その後は苦しい生活が続き、波児誕生後に母子での脱北を決意する。

居所は “ 1212(TWO=TWELVE) ” によって完全に把握され、ソウル市内で軟禁状態である。波児の無事を信じて待ちつづけている神経の太い母親である。

役どころの選定理由

未決定ゆえ、まだありませんが...

希望としては、**八千草薫**さんのような大御所女優にお願いしたい。

他に「こういう人なら相応しいのでは?」があれば、どしどし受け付けませ!!

Dr.橋本[ドクター・はしもと]

性格など

表向きは都内の整骨院に務める整体師だが、アジア全域に闇社会を牛耳っている最悪の組織“1212(TWO=TWELVE)”の幹部といわれている。在日北朝鮮人2世である彼は日本でいじめに会い、そのせいで他人不信に陥って“復讐”を少年期に誓うようになる。

その中で“1211”と出会い、朝鮮半島方面を任されるようになったが、重傷のコー村木に止めをさして朝鮮半島での“1211”の拠点をたった1人で乗っ取った。これが“1212(TWO=TWELVE)”の起こりである(もちろん、青龍&赤龍も彼にやられた)。

強さは並大抵のものではない。コー村木でも太刀打ちできないのだから、相手が王凱歌ならどうなっていることが...

彼は、“北朝鮮”という国の虚構性そのものも批判している。

役どころの選定理由

北村一輝さんをこの役に想定したわけだが、癖のある役どころ(『北条時宗』や映画の中で)をやらせると、これがかなりはまっているのだ。Dr.橋本はこう見てみるとなかなか味のある男だ。竹中直人さんとは事務所の先輩・後輩の関係だし、彼をおいて他にはDr.橋本を演じられる役者はいない。

他に「こういう人なら相応しいのでは?」があれば、どしどし受け付けませ!!

牧野源二[まきの・げんじ]

性格など

牧野恵美の父で、東京・下北沢で生まれ育った。古本屋を営んでいるが、商売はあまり振るっていない(円道寺家と同じ)。普通に、『どこにでもいる親父』という位置付けかな?

役どころの選定理由

内藤剛志さんをこの役に想定したわけだが、恵美役によってはこの役は大きく変わるであろう。だが、いかりや長介さんのような感じを出してほしいのも本音だ。

他に「こういう人なら相応しいのでは?」があれば、どしどし受け付けませ!!

【撮影地について】

基本的には今までのエディションと変わらないと思います。...でも、関西ロケ(大阪や京都・神戸など)を行ってほしい!!